

# 串原七つの滝

- 来若の滝
- 城山の滝
- お軽の滝
- 幸呼の滝
- 南山の滝
- 甘恋の滝
- 魚留の滝



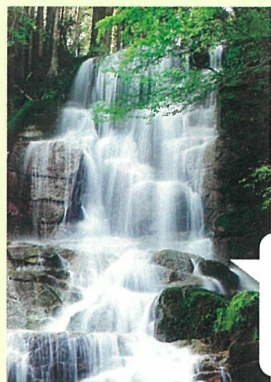
## 滝めぐりおすすめコース

|                        |                                                |            |
|------------------------|------------------------------------------------|------------|
| 七つの滝全部回るコース            | 魚留の滝 → 甘恋の滝 → 南山の滝 → 幸呼の滝 → お軽の滝 → 城山の滝 → 来若の滝 | 所要時間: 約3時間 |
| 豊田方面<br>お手軽コース<br>三つの滝 | お軽の滝 → 幸呼の滝 → 南山の滝                             | 所要時間: 約35分 |
| 明智方面<br>お手軽コース<br>二つの滝 | 城山の滝 → 来若の滝                                    | 所要時間: 約50分 |



## く じゃく 来若の滝

落差  
30m



|       |   |
|-------|---|
| ファミリー | △ |
| カップル  | ◎ |
| 初級者   | △ |
| 上級者   | ◎ |

険しい山道を下り  
少し歩くと森の中に  
突然現れます。  
静かな美しさがある。

水の流れが孔雀の後姿に似ているところから命名。  
優雅に流れる水は滝というよりは天女の羽衣のようで美しい。

## か る お軽の滝

落差  
15m



|       |   |     |   |
|-------|---|-----|---|
| ファミリー | ◎ | 初級者 | ◎ |
| カップル  | ◎ | 上級者 | ◎ |

城山の滝とは対照的な柔らかな雰囲気。  
落ち着いた水の流れは  
村の為に犠牲になったお軽の心を  
映し出しているように清らかだ。

天保の頃、村は大干ばつに見舞われ、田んぼは干上がり作物はほとんど取れない日々が続いた。村の娘「お軽」は滝不動に願をかけた。滝に住む滝不動のしもべの龍はお軽の命と引き換えに雨を降らすと約束した。お軽は滝に飛び込み命を落とした。その時、雷鳴と共に大雨が降り村は救われた。上の滝を「お軽の滝」と呼び、名前のなかった下の滝は平成23年幸せを呼ぶ滝「幸呼の滝」と命名された。

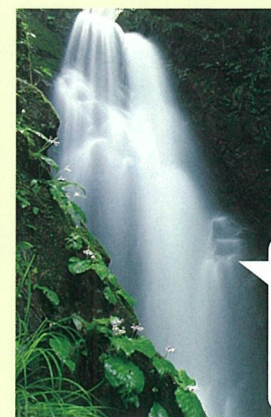
## さ ち こ 幸呼の滝

落差  
8m



## なん ざん 南山の滝

落差  
10m



|       |   |
|-------|---|
| ファミリー | ◎ |
| カップル  | ◎ |
| 初級者   | ◎ |
| 上級者   | ◎ |

滝の真ん中に  
突き刺さった大木が  
一種異様な感じがする。  
この地がかなりの難所  
であったことを物語る。

昔、この辺りを通るのが難所だったことから「難山の滝」と伝わっている地区もある。

## しろ やま 城山の滝

落差  
12m



|       |   |
|-------|---|
| ファミリー | ◎ |
| カップル  | ◎ |
| 初級者   | ◎ |
| 上級者   | ◎ |

何とも言えない独特な雰囲気の中で体がひんやりとします。  
静寂の中に響く滝音もじっくり味わってください。  
ささゆりの湯 露天風呂からも滝の音が聞こえます。

滝の上には串原遠山氏の城「大平城」があった。天正2年 武田勝頼は織田信長領地の岩村城を攻める為、その周辺の城「明知城」、「苗木城」などを次々落城させた。串原大平城も攻められ、その時戦った串原軍の武士や農民が次々に殺され、この滝も血で真っ赤に染まった。滝のまわりの黒く光る岩壁はその怨念がこもっているかのように冷たくそり立つ。

## あま ごい 甘恋の滝

落差  
40m



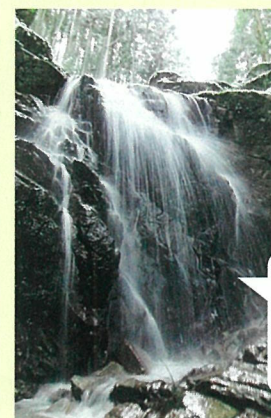
|       |   |
|-------|---|
| ファミリー | × |
| カップル  | ◎ |
| 初級者   | × |
| 上級者   | ◎ |

めったに  
見えません。

大雨が降ったときにしか現れない滝。雨乞いをしないと見えないことから甘恋にかけて命名。

## う お どめ 魚留の滝

落差  
8m



|       |   |
|-------|---|
| ファミリー | × |
| カップル  | × |
| 初級者   | × |
| 上級者   | ◎ |

駐車スペースから  
滝まで650mあります。  
上級者以外の方には  
おすすめしません。

魚が上ってこれないことから「魚留の滝」と名前がついた。